

《参考資料》

- 1)中山貴寛(監):爪・皮膚障害の対策7 抗がん剤の副作用、爪・皮膚障害はフ  
ローズングローブで予防!がんサポート.2012;113:44-46.
- 2)清原祥夫(監):分子標的薬による皮膚障害対策1 分子標的薬による皮膚障  
害は出ることが前提で、早めの対策を。がんサポート.2012;112:23-27.
- 3)森文子:皮膚障害.濱口恵子,本山清美(編):がん化学療法ケアガイド改訂版.  
中山書店.2012;189-206.
- 4)江並垂希子:EGFR 阻害薬の皮膚症状.プロフェッショナルがんナース  
ング.2012;2(3):41-52.
- 5)清水宏:あたらしい皮膚科学第2版.中山書店.2011.
- 6)山崎直也:分子標的薬時代の副作用対策 第2回特有の皮膚症状とその対  
処法 手足の観察とスキンケアが必須.Nikkei Medical.2011;71-74.
- 7)浅子恵利(監):手足症候群の予防と対策 2 早めの対策が治療継続につな  
がる!手足症候群の予防と対策.がんサポート. 2011;97:16-19.
- 8)山崎直也:分子標的薬に伴う皮膚障害に対する治療.がん看護.2011;16  
(1):28-32.
- 9)植村歩果:EGFR 阻害薬に伴う皮膚症状の予防と看護.がん看護.2011;16  
(1):33-36.
- 10)野地彩有里:分子標的治療に伴う手足症候群の予防と看護ケア.がん看  
護.2011;16(1):37-41.
- 11)信濃裕美:適切な与薬で副作用を予防・軽減する!抗がん剤の副作用対  
策②.エキスパートナーズ.2011;26(3):60-63.
- 12)米山恭子,滝口裕一:がん分子標的治療薬の副作用とその対策 皮膚毒性.  
がん治療レクチャー.2011;2(2):341-348.
- 13)田中登美(編):皮膚障害.外来がん化学療法 基礎知識・レジメン・チーム医  
療.Nursing Mook62.2010;176-178.
- 14)小林直,立身玲子(監):爪障害と対策 5 対策はある!抗がん剤治療による爪  
障害のケア.がんサポート.2010;83:36-39.
- 15)山本彩有里:がん化学療法看護 EGFR 阻害薬による発疹の特徴と看護.  
ナーシングトゥデイ.2010;71-74.
- 16)山本彩有里:皮膚障害.泌尿器ケア 2009 年冬季増刊.2009;208-212.

- 17)高橋純:抗がん剤治療による皮膚・粘膜への影響～皮膚・粘膜障害が生じやすい抗がん剤など～.がん看護.2009;14(6):650-653.
- 18)国分秀也,矢後和夫:抗EGFR薬剤の薬物動態と皮膚障害.がん看護.2009;14(6):654-659.
- 19)木下幸子:手足症候群発生時の対応.がん看護.2009;14(6):660-663
- 20)井沢知子:がん化学療法を受ける患者へのスキンケア指導.がん看護.2009;14(6):669-671.
- 21)舩田佳子:抗がん剤による皮膚障害のアセスメントとケア.がん看護.2009;14(6):673-677.
- 22)椎野育恵,中谷裕子:がん化学療法と有害事象(副作用)での看護ケア 皮膚炎.臨床看護.2009;35(8):1180-1186.
- 23)梶原絹代:いま増えている抗がん剤の副作用 ナースがかかわる手足症候群の予防・ケア.エキスパートナース.2009;25(15):12-15.
- 24)後藤歩:代表的な副作用対策 脱毛・皮膚障害.エキスパートナース.2009;25(8):128-132.
- 25)宮地良樹,松永佳世子,宇津木龍一(編):スキンケアを科学する.南江堂.2008.
- 26)松井佐知子:化学療法によって生じたスキントラブルは、どのようにケアする?.看護技術.2008;54(13):6-8.
- 27)佐々木政子,上出良一:知って防ごう有害紫外線.ビジュアル版新体と健康シリーズ.少年写真新聞社.2008;18-30,36-47.
- 28)福島雅典,柳原一広(監):脱毛・皮膚障害.がん化学療法と患者ケア.医学芸術社.2007;193-194.
- 29)佐々木常雄:皮膚の異常.抗がん剤の作用・副作用がよくわかる本.主婦と生活社.2007;104-105.
- 30)山口建(研究代表者):厚生労働科学研究費補助金「がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告書 概要版」.2004.
- 31)飯野京子,坂本照美:皮膚障害・漏出性皮膚炎のセルフケア支援.看護学雑誌.2003;67(11):1077-1083.
- 32)消費者安全調査委員会:毛染めによる皮膚障害.消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書【概要】.2015.

資料提供の協力（順不同、敬称略）

本冊子の作成にあたっては、下記の製薬企業より参考資料をご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。

旭化成ファーマ株式会社, アステラス製薬株式会社, アストラゼネカ株式会社, サノフィ株式会社, サンド株式会社, セルジーン株式会社, 第一三共株式会社, 大日本住友製薬株式会社, 武田薬品株式会社, 中外製薬株式会社, 日本化薬株式会社, ノバルティスファーマ株式会社, バイエル薬品株式会社, マルホ株式会社, メルクセローノ株式会社, ヤンセンファーマ株式会社, 日本ビーシージー製造株式会社, 大鵬薬品工業株式会社, 小林化工株式会社, 小野薬品工業株式会社

